

人といふ字

やまとの翁

なんでも、おほきな仕事をして、りつばな人にならうといふには、たがひに人と仲よくして、いつ所に仕事をしてゆく様にせねばならぬ。わがまゝをして、一人でかつてな事をやつて、ほかの人をいぢめたり、自分だけよければ、人は、さうでもかまはぬといふ様なことをしては、宜くない。そんなことは、けつしておほきな仕事も、できなければ、りつばな人にもなれない。人といふものは、どこまでも、互に、たすけ合はねばならぬ。そこで、人といふ字も、右と左ど、もちつ、もたれつで出来て居るのである。だから、人はけつして偽な事を云つて人をだましたり、おどしいれたりなんかししては、いけないのである。ところが、こゝに又

偽といふ字

がある。これは、人といふ邊に、爲といふ字をつけて、即、人がなすと書いて、偽とよませる。言を換へていふと、人のすることは、皆うそだといふことになる、元來人は、互に、もちつ、もたれつで、出来ているのに、片々に、こゝにいふ文字があるといふのは、なんと、分らない話じやと、もうさんければならぬ。なんでも、これは、世のなかに、詐偽師どか、やましとかいふものがあつて、人をだましたり、おどしいれたりすることがあるから、それで、こんな字が、出来て居るのであらう。まかし、夫は、ほんどーの人でないんだから、いつはりといふ字を、人が爲すどかくのは、甚おだやかでない。こゝにいふ文字は、これから字引からけして、ままひたいものでは、ござらぬか。

でなければ人といふ字とあはないことになる。